

崖 響

～燃えろ、熱くなれ、足高健児！～

第2号 2018/7/20 発行
栃木県立足利高等学校
進路指導部

夏休みに向けて・・・

進路指導主事 栗原 秀之

いよいよ夏休みです。「夏休みで差がつく」「夏こそ伸びる」的な言葉はあちこちで耳にしてきたと思います。夏休みは授業が進みません。今まで学習してきた中でよくわからないところの再学習（復習）をしたり、さらにレベルの高い参考書や問題集にあたって得意なところを伸ばしたり、自分で予習を進める時間もできます。つまり、自分に合った学習を計画して遂行できる「またとない機会」なわけです。

ところで、入試の中で「センター試験の合計得点」は非常に大切な要素です。思い通りに合計点数がとれていない人の多くに言えることは、「不得意であって、得点のとれない教科・科目を抱えている」ということです。そして、その不得意科目について「気にはしている」けれど、実際には「無意識のうちに放置している」人が多いのではないのでしょうか。今まで、不得意な教科・科目にどれだけ時間をかけてきたかを振り返ってみてください。この夏、不得意科目を克服しましょう。不得意な科目に意識的に向かいましょう。

■各学年主任から

 1年生主任	<p>まずは心と身体を休ませる。</p> <p>次にテストの結果等を見て、苦手な科目・単元を探しだし、克服する。</p> <p>今の段階なら必ず出来ます。そして、オープンキャンパスに行き、進路・文理選択について考える夏にしてください。</p> <p style="text-align: right;">(1学年主任 鈴木裕之)</p>
 2年生主任	<p>ハインリッヒの法則を再び学ぶ機会がありました。300の些細なことが29程度の失敗につながり、それを見落とし続けると最後の重大事、一件につながる。</p> <p>365日を大切に過ごしたか？定期テスト・土曜補習・テスト前の自主学習期間を必死で過ごしたか？これら些細なことが、年度末の一つの成果につながります。</p> <p>この夏休みは些細なことを積み重ね、頑張ってください！</p> <p style="text-align: right;">(2学年主任 伊東徹)</p>
 3年生主任	<p>「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」</p> <p>江戸時代後半、財政破綻寸前の米沢藩を建て直した上杉鷹山の言葉です。限界はやってみないとわかりません。やってみる前から自分で限界を決め、「入れる大学」で妥協して欲しくはありません。「入りたい大学」を目指し、本当の限界まで、いや、限界を越えて挑戦しようではありませんか。「今までの人生で一番勉強した」と言えるくらいに。</p> <p style="text-align: right;">(3学年主任 鈴木誠)</p>

※1年生に向けて

皆さんが大学を受験をする平成33年度入試ではいくつかの変更があります。まず、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」が評価されるようになります。なにやら難しい表現ですが、先日、学校内外での皆さんの活動を記録し始めたことがそれにあたります。また、英語4技能の評価ということで、3年生で英語の資格・検定試験を2回受験し、その成績も入試に使われるようになります。センター試験も「大学入学共通テスト」と名を改め、国語と数学Ⅰに記述式問題が登場し、従来とは傾向の異なる問題も含まれてくることになります。活動の記録や英語の資格・検定試験が入試の中でどのくらいの重みを持って評価されるかは現在のところはっきりしませんが、これからそれぞれの大学から発表されてきます。入試に変更があるといっても、根本が変わるわけではないので、各教科の先生の指示に従ってしっかり学習しておいてください。

(文責：栗原)

足高進路室より

太田高校との対抗戦は終わりましたが、まだまだ暑い日々は続きます。
3年生にとって大切な夏です！悔いのない勉強をしてください。

ご意見・ご要望はお気軽に足高進路通信担当（飯村）までお寄せください。